

令和3年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない		教務部 2021年度重点目標																	
		項目1	目標	オンライン授業と対面授業の併用も視野に入れて、教育の充実をはかっていく。															
達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目2		目標	行事の目的や成果を検討し、SGHネットワーク校としての活動やユネスコスクールとしての活動を学校全体に組み込んでいく。															
		達成方法	①学校全体、各学年で行ってきた宿泊行事や情報教育などのプログラムを整理していく。 ②GLCを中心に進めてきた様々な問題に目を向け考えるプログラムや総合の在り方などを持続可能なものにするために組み入れていく。																
達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目3	目標	新しい学習指導要領を生かして、次世代の教育活動を推進していく。																
		達成方法	①中学の観点3要素に置換されるに伴い、アドバンス、GLCのコースごとの評価基準を刷新していく。 ②レポート評価のルーブリック作成など、教科主導で生徒が自主的に学べる授業の工夫を教科で進めていく。																
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.62	2.69	3.08	2.38	3.69	2.46												
1		4	3	3	3	4	3												
2		4	3	3	3	4	3												
3		2	1	2	1	2	1												
4		4	3	3	3	4	3												
5		4	3	3	2	4	2												
6		4	3	3	3	4	3												
7		3	2	3	2	3	1												
8		4	3	3	3	4	3												
9		4	2	4	2	4	2												
10		4	3	4	2	4	4												
11		3	3	2	2	4	2												
12		4	3	3	2	3	2												
13		3	3	4	3	4	3												
<p><取組状況・次年度への課題など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、必然的に対面だけでは進められない状態を経験し、オンラインで行う授業への工夫は各教科で見られており、審査に頼らない多種多様な評価材料への工夫も沢山見られるようになってきている。しかしまだまだ既成の概念を越えられていないところも見られ、対面のよさはもちろんあるが、こだわらない柔軟性も必要だと感じる。既成概念を越えるような、生徒が学びたくなる工夫や導き方への工夫をもっと打ち出していきたい。 ・学校として行ってきた様々なプログラムや様々な活動を昇華させていく工夫は行っているが、まだまだ教員間でも生徒間でも内容への理解度が異なり、やるべきことが増えていくように感じるところもあり、学校全体が一枚岩にはなっていない。全体がともに歩むようなプログラム、GISや総合などへのとり組み方など、様々に統一も図っていく必要がある。 ・新しい学習指導要領を生かした学習プログラムについて各教科で授業への工夫を考えていただいている。コースごとの評価基準への工夫や審査以外の評価方法についても各教科で話し合いがとられているが、オンライン授業の増加などもあり、クラス全体、学年全体を巻き込むような教育活動には制約があったように思える。対面のよさとオンラインのよさ、個人のよさと全体で行うことのよさなど、様々な要素を含みこんだ次世代の教育活動を模索していくことがこれからも重要である。 																			

令和3年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		生徒部 2021年度重点目標(生きる力育成に向けて)																		
		項目1		項目2		項目3		項目4												
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75~100% (ほぼ達成した) [3]50~74% (まあまあ達成した) [2]25~49% (あまり達成できなかった) [1]0~24% (ほとんど達成できていない)	目標	グローバル社会へ対応できる力をつけさせる																	
		達成方法	①各種学校行事等を通じて異文化や多様性を理解し、対応できる力を養う ②自分自身で考え行動できる能力を育てるとともに、様々な人と円滑にコミュニケーションをとる力を養う																	
		目標	校訓「恥を知れ」を生活指導の基本方針として指導し、基本的な生活習慣を定着させる																	
		達成方法	①登下校指導、HR、集会等を通じて、挨拶・マナー・モラル並びにルールを遵守することの意識と重要性を伝える ②自己肯定感を高め、自主的に好ましい生活習慣を身につけ、自ら進んで学ぶ姿勢を定着させる																	
		目標	豊かな人間性を養い、周りから共感を得られる人間関係を構築できる人に成長できるよう指導する																	
		達成方法	①道徳・LHR・集会などあらゆる機会を利用し、「思いやり」「寛容」の心をもつ、心豊かな生徒を育てる ②教科の学習だけでは得られない多様な学びの場として「部活動」を位置づけ、生活全般の中でバランスのとれた体制の下での活動に努める																	
		目標	困難・逆境に強い意思をもって立ち向かい、強く生きる力を養う																	
		達成方法	①新型コロナウイルス対策の長期化を見越し、強い意思をもって対応できる精神力を身につけさせる ②学園祭・合唱コンクール・生徒会活動等を通じて、「協調」「連帯」「共感」が好ましい人間関係の構築を可能にし、そのことが生きる力となることを理解させ、実践させる																	
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度											
		3.82	3.18	3.94	3.00	3.94	3.06	3.94	3.24											
部署コード/平均		4	3	4	3	4	3	4	3											
1		4	3	4	3	4	3	4	3											
2		3	3	4	3	4	4	4	3											
3		4	3	4	3	4	3	4	4											
4		4	3	4	3	4	2	4	3											
5		3	3	4	4	4	3	4	3											
6		4	3	4	3	4	3	4	3											
7		4	4	4	4	4	4	4	4											
8		4	4	4	3	4	3	4	4											
9		4	4	4	3	4	3	4	4											
10		4	4	4	4	4	4	4	3											
11		4	3	3	2	3	2	3	3											
12		4	3	4	3	4	3	4	3											
13		4	3	4	3	4	3	4	3											
14		4	3	4	2	4	4	4	4											
15		3	2	4	2	4	2	4	2											
16		4	3	4	3	4	3	4	3											
17		4	3	4	3	4	3	4	3											
<取組状況・次年度への課題など>																				
<p>項目1 昨年度に続き、今年度もコロナ感染対策のため、宿泊行事等が中止される中で、文化祭については、オンラインと来場型のハイブリッドで開催するなど、課題へのアプローチに努力した。文化祭のテーマをSDGsとして、グローバルな視野をもって取組んだほか、集会などを活用し、グローバル時代に求められる多様性への理解を深めた。</p> <p>項目2 校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本的方針として、これを挨拶・マナー・モラル・ルールの遵守など具体的に基本的な生活習慣としてブレイクダウンし、その定着に努めた。登下校指導・HR・集会等いろいろな機会を利用して指導するとともに、全教員が自ら声掛けを行うなど対面教育を実施した。主体的な生き方を実現する前提として、自ら目標を設定し、具体的にメルクマールを設け、達成状況を自己評価するプロセスの大切を指導した。</p> <p>項目3 道徳・LHR・集会等の指導を通じて、他者に対する思いやり、他者の心の痛みを理解できる心豊かな生徒に育てよう努めた。コロナ感染予防対策のため、部活動を中止せざるを得ない期間が長期間に渡ったが、活動時間を大幅に短縮しつつ、部活動本来の効果実現に努めた。</p> <p>項目4 新型コロナウイルスという困難に対して強い意思をもって対応する重要性並びに閉塞感を打破し、心の健康を保つことの必要性への理解を深めた。文化祭、体育祭、合唱コンクールなどの行事を通じて自己肯定感を高めると共に、他者との協調性、連帯感、共感によって望ましい人間関係の構築が自らの生きる力となることを学習させた。</p>																				

令和3年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		入試広報部 2021年度重点目標																		
重要度 [4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない 達成度 [4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。																	
		達成方法	ポストCOVID-19下での新たな広報の仕方を研究し、これからのNew Normal に対応した情報の発信方法を確立する。 教員全員による塾訪問を継続。訪問のタイミングで伝えるべき内容を明確にする。																	
	項目2	目標	Webサイト、ネットを利用した情報発信を効果的に行う。																	
		達成方法	ホームページの情報updateを定期的かつ細やかに行う。																	
			web説明会、online説明会などリモートでの学校説明を導入する。																	
	項目3	目標	GLC入学希望者のさらなる増加を目指す。																	
		達成方法	北米入試に加え、欧州エリアをカバーする入試に関して、オンラインでの実施を目指す。																	
			GLCのブランド化とともに、英語学習歴がある国内小学生に対する広報戦略を進める。																	
	項目4	目標	COVID-19の感染状況に応じて、海外広報活動及び海外帰国生入試の実施方法を柔軟にとらえて実施する。																	
		達成方法	中学入試について柔軟に対応しつつ、定員を確保できるように実施する。 募集要項の遵守を目標にししながら、COVID-19対応を盛り込んだ入試運営を行う。 入試に関して、受験生に不安を与えないような情報発信をし、受験生の確保に努める。																	
			項目1		項目2		項目3		項目4											
			重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		3.75	3.17	3.75	3.00	3.33	3.08	3.83	3.33											
1		3	3	3	2	3	2	3	2											
2		4	3	3	2	3	3	4	3											
3		3	3	4	2	2	4	4	3											
4		4	4	4	3	4	2	4	4											
5		4	3	4	3	4	4	3	3											
6		4	4	4	4	4	3	4	4											
7		4	3	4	4	4	4	4	3											
8		4	3	3	3	3	3	4	4											
9		4	3	4	3	3	3	4	4											
10		3	3	4	4	3	3	4	3											
11		4	3	4	3	4	3	4	4											
12		4	3	4	3	3	3	4	3											
<取組状況・次年度への課題など> 項目1: ポストコロナを想定しつつも、オミクロン株の出現等のため、コロナ下での広報活動となった。携帯アプリを活用しつつ、説明会等をはじめとした広報イベントを細やかに発信した。各イベントでの参加数制限の中、前年度比で1.5倍近くの説明会集客を達成した。一方で、塾訪問に関しては、訪問を控えざるを得ない状況もあり、コロナ前と比べ訪問数がかなり落ち込んでしまった。 項目2: ホームページに関しては、例年と比較して、かなりの回数のアップデートを行った。特に、学校見学等の予約についてはキャンセル対応をこまめに行い、来校者からも高評価をされた。ただし、発信内容が入試や説明会関連に偏るといった反省点もあり、他の部分のアップデートが見逃されてしまうことがあった。 項目3: コロナウィルスが収まらず、海外在留中の受験生対応として、オンライン入試を「アジアオセアニア」「北米」「ヨーロッパ」と3つのエリアで実施をした。シンガポール会場と国内入試も含め、帰国生入試を実施する学校が増える中、昨年並みの受験生を確保できた。さらに、帰国生の入学生も昨年を上回る事ができた。 項目4: 入試に関しては、昨年同様コロナウィルスへの対処が必要な入試となり、21年度の経験を踏まえ、安全・安心を第一に準備、運営をした。出願時において受験規定を提示することで、運営上のトラブルはなかった。受験生の数は前年を上回ることができ、予定通りの入学予定者を確保できた。また、合格発表や、書類の受け渡し、入学手続きについてはオンライン化を進め、コロナ禍の中、感染対策にもつなげることができた。なお、すでに小学6年生の生徒数は年々減少傾向にあることから、予断を許さない現状に変わりはない。																				

令和3年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		グローバル・センター 2021年度重点目標 Global Center - The Goals to achieve for 2021	
重要度 [4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない 達成度 [4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	G o a l	<p>スーパーグローバルハイスクール・ネットワーク校、ユネスコ・スクール(申請中)として、国内外の教育機関との一層の提携を進め、カリキュラムやプログラムの開発、実践を進める。</p> <p>Otsuma Nakano as a school of SGH Network and UNESCO School will be developing and innovating advanced school curriculum and new programs for nurturing global citizen education collaborating with domestic and foreign schools and educational institutions.</p>
	達成方法	S t r a t e g y	<p>ユネスコ・スクールのミッションを踏まえ、地球市民としての自覚、SDGsへの明確な意識を持った取り組みを、カリキュラム内外で継続的に実施し、その成果の校内への浸透を進めていく。</p> <p>Based on the mission of a UNESCO School, we will explore various programs to develop global citizenship and a strong sense for SDGs and share its achievement within and outside Otsuma Nakano community.</p> <p>"Beyond School and Outreaching"をキーワードに、Model UN, HLAB, HEnDA, WISH, TED x Youth, SGH Network など、国内外の組織と交流し、各種のプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を共有化できるように校務運営会議で報告する。また、外国語科、地歴公民社会科を中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒をより一層、サポートし、成果を学校全体に普及させる。</p> <p>With the keyword of "Beyond School and Outreaching" and collaboration with MUNs, HLAB, HEnDA, TED x Youth, SGH Network, we will provide many platforms for students to give their try to participate in these programs and competition. Plus, we will share the achievement with all of the school community with various ways.</p> <p>本校の"教育コンソーシアム"としての外部機関、文部科学省、大妻女子大学英語教育研究所、玉川大学教育学部、日本国連協会、フランス大使館、JSAF、WCEなどと積極的に連携し、グローバル教育関連情報やプログラムへのサポート体制をさらに充実させていく。</p> <p>We will develop the relationship with MEXT, Otsuma Women's University and the Institution for Research in English Education, Tamagawa University, United Nations Association Japan, Embassy of France, JSAF, World Creative Education Ltd. and other institutions</p>
	項目2	G o a l	<p>留学、海外大進学、国際併願進路、国内英語学位コースへの進学、スーパーグローバル大学への進学への意欲、関心をより一層喚起し、実現する生徒をより一層増やしていく。それにより、SGH ネットワーク校としてのミッション「留学をしたり、将来、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒を増やす」を達成する。</p> <p>We will be more committed to studying abroad programs, going to foreign universities and undergraduate English courses in domestic universities and Super Global Universities, which will lead to the mission as a SGH Network school that we will achieve the number of the students who are keen to be proactive in this globalized society as a leader.</p>
達成方法	S t r a t e g y	<p>卒業生を積極的に活用し、トビタテ！生や留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的にを行い、留学と海外大学進学の意味を卒業生や経験した生徒からこれからの生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。</p> <p>We appreciate our alumni as excellent "evangelists" to encourage current students to be more motivated to challenge themselves to go abroad beyond school. Also, we will actively share these engagements with the school website and information meetings.</p> <p>「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「アメリカ大使館」、「ブリティッシュ・カウンシル」、「オーストラリア各州政府」、「フランス大使館」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。</p> <p>We will make our relationships further with Tobitate, HLAB, the Embassy of America, the British Council, the state governments of Australia, the French Embassy, Colibri and will advise students to get involved to these programs.</p> <p>グローバルチューターを積極的に活用し、また、グローバルサポーターとして卒業生を組織化して、進路アドバイス、エッセイ指導、IELTS、TOEFL、SAT、国連英検をさらに奨励する。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などを行う。</p> <p>Global Tutors are our imperative human resources, and also we will set up a new association of our alumni as "Global Supporters". We will provide various platforms where these Global Tutors and Supporters will give advice to current students as mentors about English testing including IELTS and SAT. On the platforms, English speaking teachers will be joining them to facilitate the alumni and current students to work together.</p>	
項目3	G o a l	<p>グローバル・センターのオフィス機能、ロジスティック機能をより一層、充実させる。英語での各種書類の作成などの教務実務、海外大学進学、留学、海外からの編入生受け入れとその後の指導に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材の育成を継続してより一層進めていく。</p> <p>We will innovate logistics of the Global Center as the office to be committed to educational documentation for students' study abroad, and going to foreign universities and transfer enrollment.</p>	
達成方法	S t r a t e g y	<p>英語で教育実務を実践できる人材開発は、最も重要な点である。外部組織との十分な連携なども含め、文書の英語化、英語による校内の日常的なコミュニケーションの頻度を増やし、また、英文書類の作成をマニュアル化していく。</p> <p>We will develop human resources to use creative and practical educational logistic skills in English for Otsuma Nakano. For further collaboration with outsource institutions, communication for school operation in English will be more implemented.</p> <p>本校教職員自身が複言語母語、多文化化していることを踏まえ、日本人教員と外国人教員の協働して生徒指導に当たれる体制を整備する。</p> <p>We will collaborate Japanese teachers and English native teachers for assisting students with writing various kinds of application essays for study abroad programs, transferring to international schools or local schools outside of Japan and applying to universities in foreign countries. countries.</p> <p>外国人教員と日本人教員が、さまざまな校務でコミュニケーションをとり、本校と海外の学校を繋ぐように働きかけ、海外の学校や帰国生に本校のメッセージを発信していく。</p> <p>We will collaborate and communicate with Japanese teachers and English native teachers for assisting with the editing of official school correspondence with various universities, middle schools, and our educational partners.</p>	

令和3年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

<取組状況・次年度への課題など>

1. 項目1について。2021年度はSGHネットワーク校として活動を開始。WVL校プログラムを中心に様々な校外プログラムに生徒が挑戦し、その成果を振り返りレポートでフィードバックして、全体へのシェアを進めることができた。立命館宇治中高の国際高校生会議 SURVIVE、高校生全国サミットFOCUS、ラオス・オンラインリーダーシップ研修、APU国際学生ディスカッション、立命館宇治模擬国連、渋谷教育学園渋谷 SOLA、文部科学省WVL・SGH高校生全国フォーラム、国立愛媛大学附属高等学校とのE-CAFEプログラム、都立多摩科学技術高等学校のオーストラリア・グリフィス大学連携プログラムなど、多数のチャレンジを行った。また、これらのチャレンジが、上級生から下級生へ、生徒同士でその成果や実績の継承がなされつつある。ユネスコ・スクール活動では、キャンディードとしてのステイタスで、玉川大学と協働して、第2回ユネスコスクール関東大会分科会のホスト校として活動を行い、世界のユネスコスクールに向けてユース宣言を発信することができた。Beyond Schoolへ取り組む生徒もさらに増え、その成果の報告や共有もなされるようになった。次年度も継続して進める。

2. 項目2について。留学については、少しずつ海外渡航の動きが活発になり、1年留學生は前年よりも増えており、フランスへの1年留学も再開することができた。また、ターム留学もドイツで5名、再開・実施をすることができた。また、一部、国によっては留学できないところがあるが、1年、セメスター、ターム留学で、アメリカ、カナダ、アイルランド、フランス、ドイツなどへの留学を再開している。また、留学から帰国した生徒たち、卒業生が、自主的にその成果を継続的に普及させる動きが活発になったことが大きな変化と進歩である。今後の留学ガイダンスは、留学経験生徒や卒業生を中心に、留学相談的な形で実施していきたい。また、海外大学進学は、チャレンジ生徒が3名とコロナ禍の中で思うように増えていない。ただ、文科省の学位取得型海外大学奨学金、柳井財団の海外大学進学奨学金、Grewbancroft奨学金など、最難関の海外大奨学金プログラムへチャレンジする生徒が出てきたのは大きな進歩と考えている。大学進学時での留学相談なども増えており、生徒のレベルの向上、留学を自分の将来のキャリアに役立てていこうという意識が高まっている。オンラインでの大学進学ガイダンスをこまめに実施をして、多様性のある進学をサポートしていきたい。

3. 項目3の「英語による教務事務、実務ができる人材育成とその体制の整備」については、事務局と連携し、卒業生の英文書類関係を事務局でスムーズに発行できるようにしたり、校内でも、その体制を明確にすることができ、2021年度高校3年生で、留学経験生徒、帰国生、編入生の大学受験での大きな実績に繋がっている。海外校との交渉などの留学実務などを行うことのできる人材育成と体制の整備において、さら進めていきたい。また、本校の特徴あるグローバル教育を推進する専門性の高い人材と組織を、グローバル・センターが中心になって作り上げていくことが課題である。